

博士論文 平成 29（2017）年度

Opportunities in Political Environments:

An Examination of Interpretation, Resources, and Capabilities

(政治的環境における機会：解釈、資源、能力に基づく考察)

慶應義塾大学大学院商学研究科

安田 直樹

組織がオープンシステムとして捉えられるようになって以降、環境の不確実性が企業行動に与える影響は様々な分野で研究対象となっている。特に企業の政治的環境（political environments）の不確実性への適応は重要な研究課題となっている。政治的環境とは、企業の本国および現地国の政府との関係を意味し、先行研究では政治的環境の不確実性は主に脅威の源泉であると見られてきた。例えば、国際経営研究では企業は政治的不確実性の高い国への投資は行わないと主張されており、また企業の政治的活動（corporate political activities）の研究では、政治的活動によって企業は政治的環境への働きかけを行う必要が指摘されてきた（Henisz & Delios, 2001; Hillman & Hitt, 1999）。しかしながら、政治的環境の不確実性には機会の概念も包含されていると考えられ、本論文はこの機会に着目して政治的環境における機会のモデルを提示し、モデルの実証的証拠を提示することで、政治的環境における機会の研究の発展に貢献することを目的としている。具体的には、解釈（interpretation）、資源（resource）、能力（capability）のアプローチによって政治的環境における機会のモデルを提示している。このモデルは現地国の政治的環境の適応プロセスを示すものである。

本論文は、以下のとおり四部九章で構成されている。まず、国内と海外に分けて政治的環境における脅威と機会に関する理論を先行研究レビューによって整理したうえで体系化している。次に、政治的環境における機会に関するモデルを提示し、モデルを構成する概念である(1) 解釈（interpretation）、(2) 資源（resource）、(3) 能力（capability）のそれぞれの理論的位置づけを、三つの概念の先行研究レビューによって明確化している。そのうえで三つの概念をテーマとする統計的実証分析を行っている。

## Introduction Part

1. Introduction
  - 1-1. Introduction
  - 1-2. Introducing the Model of Opportunities in Political Environments
  - 1-3. Theoretical Background
  - 1-4. Scope and Applicability
  - 1-5. Structure

## Theory Part

2. Threats and Opportunities in Domestic Political Environments
  - 2-1. Open Systems
  - 2-2. Political Embeddedness
  - 2-3. Rule Makers
  - 2-4. Creators of Norms
  - 2-5. Resource Provider
    - 2-5-1. Political (firm-government) Ties
    - 2-5-2. State-level Social Capital
  - 2-6. Corporate Political Activities

- 2-7. Summary
- 3. Threats and Opportunities in International Political Environments
  - 3-1. Classification in International Management Research
  - 3-2. Environment in Host Countries
    - 3-2-1. Political Uncertainties as Threats
    - 3-2-2. Political Uncertainties as Opportunities
    - 3-2-3. Foreign Experience and Capabilities
    - 3-2-4. Political Capabilities
  - 3-3. Summary
- 4. Model of Opportunities in Political Environments
  - 4-1. Interpretation, Resources, and Capabilities
  - 4-2. Interpretation
    - 4-2-1. Concept of Interpretation
    - 4-2-2. Managerial Attention
    - 4-2-3. Aspiration
  - 4-3. Resource
  - 4-4. Capability
    - 4-4-1. Dynamic Capabilities
  - 4-5. Assumptions
  - 4-6. Summary

#### Empirical Part

- 5. Empirical Approach to Opportunities in Political Environments
  - 5-1. Approaches
  - 5-2. Global Mining Industry
  - 5-3. Unit of Analysis
- 6. Empirical Study 1: Interpretation of Political Environments
  - 6-1. Summary
  - 6-2. Objective
  - 6-3. Theory and Hypotheses
    - 6-3-1. Simplification Process of the Environment
    - 6-3-2. Feedback and Reference Point
    - 6-3-3. Momentum and Deceleration
    - 6-3-4. Political Risk Reference Points
    - 6-3-5. Hypotheses
  - 6-4. Methods
    - 6-4-1. Research Setting
    - 6-4-2. Data and Sample

- 6-4-3. Measurement
  - 6-4-4. Statistical Analysis
- 6-5. Results
- 6-6. Discussion and Conclusions
- 7. Empirical Study 2: Resources from Political Environments
  - 7-1. Summary
  - 7-2. Objective
  - 7-3. Theory and Hypotheses
    - 7-3-1. Model of Competitive Political Resources
    - 7-3-2. Governments' Interests and Interventions
    - 7-3-3. Intergovernmental Networks and Home Government Social Capital
    - 7-3-4. Home Government Social Capital and Asset Procurement by MNC
  - 7-4. Methods
    - 7-4-1. Research Setting
    - 7-4-2. Data and Sample
    - 7-4-3. Measurement
    - 7-4-4. Statistical Analysis
  - 7-5. Results
  - 7-6. Discussion and Conclusions
- 8. Empirical Study 3: Capability from Managing Political Environments
  - 8-1. Summary
  - 8-2. Objective
  - 8-3. Theory and Hypotheses
    - 8-3-1. Some Illustrative Cases
    - 8-3-2. Nonmarket Strategies
    - 8-3-3. Political Capabilities
    - 8-3-4. Political Changes and MNCs' Reactive Actions
    - 8-3-5. Hypotheses
  - 8-4. Methods
    - 8-4-1. Research Setting
    - 8-4-2. Data and Sample
    - 8-4-3. Measurement
    - 8-4-4. Statistical Analysis
  - 8-5. Results
  - 8-6. Discussion and Conclusions
- Conclusion Part
- 9. Conclusion

- 9-1. Summary of Chapters
- 9-2. Opportunities in Political Environments
- 9-3. Discussion
- 9-4. Limitations

## 第一章 インTRODakション

第一章はINTRODUCTIONの位置づけであり、論文の目的、対象、適用範囲を明示している。また、本論文のモデルを構成する 3 つの概念である解釈 (interpretation)、資源 (resource)、能力 (capability) の理論的ベースを概観している。

## 第二章 国内の政治的環境に関する脅威と機会

第二章から第四章では先行研究の理論的背景を整理している。まず第二章では社会学的視点 (sociology view) によって政治的環境を捉えることで、国内の政治的環境 (domestic political environments) における脅威および機会について整理している。社会学的視点によって捉える理由は、本論文では企業がオープンシステムであることを前提としているからである。この社会学的視点とは、Davis (1994)によれば、パフォーマンスの結果ではなく戦略や企業行動の先行条件 (antecedent) に着目する考え方である。本章では、組織生態学 (population ecology)、制度理論 (institutional theory)、資源依存理論 (resource dependence theory)、社会ネットワーク理論 (social network theory)、取引費用 (transaction cost) のそれぞれの理論的側面から、国内の政治的環境における脅威および機会について整理している。例えば、資源依存理論は企業の政治的活動に代表されるように政治的環境を脅威と捉えているが、同理論が主張する取締役会における資源提供 (resource provision) の機能は機会と捉えられる。また、国の社会関係資本 (state-level social capital) の考え方も、政治的環境を機会と捉える見方である。

## 第三章 国際的政治的環境に関する脅威と機会

第三章では国際経営研究の観点から政治的環境を捉えることで、国際的政治的環境 (international political environments) における脅威および機会について整理している。具体的にはまず、Vernon (1971)や Boddewyn and Brewer (1994)をはじめとする国際的政治的環境における政治的活動の重要性の指摘から、Hillman and Wan (2005)などの現地国における政治的活動の議論を行っている。続いて、Kobrin (1978)からはじまりその後 Delios らが行っている政治的不確実性と国際化の研究についてレビューしている。これらは国際的政治的環境を脅威と捉える見方である。続いて、Frynas and Mellahi (2003)をはじめとする国際的政治的環境を機会と捉える研究につなげている。

## 第四章 政治的環境の機会に関するモデル

第四章では、Daft and Weick (1984)のモデルをベースとして、政治的環境における機会に関するモデルを提示している。具体的には、解釈 (interpretation)、資源 (resource)、能力 (capability) のアプローチによって企業の政治的環境における機会のモデルを提示している。このモデルは現地国の政治的環境の適応プロセスを示すもので、当該モデルの主張は以下のとおりである。第一に、政治的環境から機会を得るためには企業は現地国の政治的環境 (host country political environments) を機会と解釈 (interpretation) するプロセスが必要である。なぜなら、機会と認識しなければ、資源 (resource) や能力 (capability) を得る動機が醸成されないからである。続いて、国内の政治的環境から資源 (resource) を得て、海外市場参入などのアクションを起こす (taking action)。これらのアクションによって国際的政治的環境から学習機会 (learning opportunities) を得て、その学習によって得られる経験が能力 (capability) の醸成へとつながる。能力 (capability) の醸成によって、解釈 (interpretation) が変化することになり、このループが繰り返されることになる。

さらに本章では、本論文のモデルを構成する概念である解釈 (interpretation)、資源 (resource)、能力 (capability) のレビューを行い、それぞれの概念が異なる理論的前提を有していることを明らかにしている。解釈 (interpretation) の概念は、企業の行動理論 (behavioral theory of the firm) に基づいてレビューしている。資源 (resource) については、資源ベース理論に関する議論を行っている。能力 (capability) については組織学習理論およびナレッジベース理論に基づく考察を行っている。本章ではダイナミックケイパビリティ (dynamic capability) の概念が能力 (capability) と関連していることを指摘してダイナミックケイパビリティに関するレビューを行い、本論文の対象外であることを明示している。

## **第五章 政治的環境の機会の実証的アプローチ**

第五章から第八章では、実証研究のコンテキストの提示と政治的環境における機会に関する3つの実証研究を行っている。第五章では実証研究の対象となるグローバル鉱業産業の概要について、主要プレーヤーや生産量の推移に関するデータとともに紹介している。第六章から第八章は統計的実証研究の章となっており、それぞれ(1) 解釈 (interpretation)、(2) 資源 (resource)、(3) 能力 (capability) に関する実証研究である。実証研究では1992年～2007年までの企業のデータを利用しており、分析に用いたデータは、Raw Material Data から取得している。

## **第六章 政治的環境の解釈 (interpretation)**

一つ目の実証研究である「政治的環境の解釈」では、政治的環境をどのように解釈し、その解釈 (interpretation) に基づく企業行動から得られるフィードバックがその後の企業行動にどのような影響を与えるのかを明らかにしている。本章では、解釈 (interpretation) の概念をモメンタム (momentum) およびデセレーション (deceleration) の概念に統合することで仮説を提示している。具体的には、先行研究における政治的リスクが企業にとって均一であるという前提に対して、その政治的リスクの解釈 (interpretation) は企業が保有する政治的リスク希求水準 (political risk reference point) によって異なることを主張し、政治的リスク希求水準に基づいて、それよりも上の

領域での行動と下の領域での行動に分類している。そのうえで、上の領域での行動と下の領域双方とも、行動からのフィードバックの影響によってその後の同じタイプの行動は減少する一方で、異なる領域における行動は増加することを明らかにしている。本章では、政治的リスク希求水準を「当該企業が事業を行っている国の政治的リスク」と捉えて、企業がこの政治的リスク希求水準に基づいて政治的環境の機会を解釈していることを主張している。

## **第七章 政治的環境における資源 (resource)**

二つ目の実証研究である「政治的環境における資源」では、ネットワークレベルの国の社会関係資本が、企業にどのような競争優位をもたらすのかを明らかにするとともに、競争的政治的資源 (competitive political resources) の概念に関する包括的モデルを提示することを目的としている。国の社会関係資本とは、国間の関係性が企業に便益をもたらすことを意味する概念である。本章では、競争的政治的資源のモデルは、国の社会関係資本 (ネットワーク効率性)、国の政治体制、企業の経験、企業の国内における政府との紐帯によって構成されることを主張している。本章では国の社会関係資本 (ネットワーク効率性)、国の政治体制、企業の経験の三つの要素に関する仮説を提示しており、国の政治体制および企業の経験は、国の社会関係資本 (ネットワーク効率性) が企業の競争的行動に与える影響のモデレーターとなっている。結果として、国の社会関係資本 (ネットワーク効率性) は企業の競争的行動に影響を与えること、その影響は国の政治体制が独裁的なほど強いこと、企業の海外経験が豊富なほど強いことが明らかになっている。

## **第八章 政治的環境からの能力 (capability)**

三つ目の実証研究である「政治的環境からの能力」では、企業の経験が企業の政治的不確実性対応の能力にどのような影響を与えるかを明らかにすることを目的としている。本章では先行研究に基づいて、経験の蓄積と政治的高リスク行動の関係を分析することで、政治的不確実性対応の能力醸成プロセスを論じている。アプローチとしては経験の質に着目し、政治的環境の変化 (選挙によるトップの交代) への異なる反応の経験が、政治的不確実性対応の能力にどのような影響を与えるのかを明らかにしている。具体的には、政治的環境の変化への反応を早期退出、静観、活動的従事の三つに分けて、それぞれの経験蓄積の効果を明らかにしている。結果として、早期退出の経験蓄積は政治的高リスク行動にネガティブな影響があること、静観は有意な影響がないこと、活動的従事の経験蓄積はポジティブな影響があることが明らかになっている。

## **第九章 結論**

第九章では、研究の総括を行っている。本章では、政治的環境における機会に関するモデルおよび、このモデルを構成するそれぞれの概念の実証的証拠が提示されている点を確認し、本モデルの理論的貢献を示している。同時に、本章では今後の研究の方向性を提示している。第一に、本論文では解釈 (interpretation)、資源 (resource)、能力 (capability) がそれぞれ独立に議論されているも

の、相互の関連を明らかにすることが重要となる。第二に、解釈 (interpretation)、資源 (resource)、能力 (capability) は、それぞれ独立の議論としても発展可能性がある。解釈 (interpretation) の議論では、本論文では不確実性を機会と解釈する点に焦点を当てているが、Gavetti (2012)によれば機会は認知的に遠いものであり、遠いところに存在する事象をどのように発見し、どのような要因が機会という解釈 (interpretation) につながるのかを明らかにすることは、重要な研究課題となる。また、資源 (resource) の議論は Mazzucato (2013)の起業家的国家 (entrepreneurial state) の考えを示唆するもので、国の役割の重要性を再度強調するものである。能力 (capability) については、今後どのような種類の経験が能力 (capability) の醸成につながるのかを明らかにすることが重要となる。第三に、本論文の視点はダイナミックケイパビリティと関連する。ダイナミックケイパビリティは、環境変化を組織がどのように認識して、どのように組織の資源や能力を変化させていくのかを議論している。必然的に、経営者の認知 (managerial cognition) と資源 (resource)、能力 (capability) の議論を統合していくことが求められることになる。ダイナミックケイパビリティの研究は、未だその発展プロセスやアウトカムについて統一の見解がないため、認知 (cognition) の観点を含めながら、より精緻な実証研究の積み重ねが必要になると思われる。第四に、本論文では子会社レベルの議論は行っていないが、政治的環境の機会に関するモデルは多国籍企業の子会社および本社の関係にも応用できるのではないかと考えられる。本社が海外に存在する機会を多く得るためには、遠い国々も含めて、機会の存在についてあらゆる可能性を認識する必要がある。機会を認識したら、本社は機会を活かすための資源 (resource) を子会社に与えることが必要になる。そして、その国での経験を通じて子会社間あるいは多国籍企業全体で知識や能力 (capability) を共有できる、ということが考えられる。

第九章ではさらに本論文の限界を提示している。例えば、本論文の実証研究は単一の産業を対象にしたものであり、一般化可能性を限界としてあげている。また、本論文は企業間相互作用の考慮がなされていない点や、解釈 (interpretation) を直接測ることができていない点などを提示している。